

2010年第1回 IEEE 福岡支部理事会議事録

日 時：平成 22 年 1 月 29 日（金）12:00～15:00

場所：九州先端科学技術研究所（九州先端研 ISIT）会議室

出席：岡田、大久保、末次、荒木、渡辺、楯崎、二宮、西本、諸岡、牛島（事務局）

欠席：窪寺、内田、笹尾、乃万、山下、谷口、常田

*16 名の定員中 9 名出席、内 Elected Officer 6 名で定足数を満たしている。（Section Addendum V-2）

議 題：

1. 前回議事録の確認

末次 Secretary より議事録案の概要説明があった。

2. JC 理事会報告

代理出席した末次 Secretary より 2009 年 12 月 14 日開催の JC 理事会の議事内容の説明があった。東京セクション傘下の Japan Chapter を Tokyo Chapter に組織変更して各地区に各セクション傘下の Chapter 設立を促す件について JC としての方針を検討した結果が発表された。その内容は、「1. 東京支部傘下にチャプタを設立する場合は、既設のチャプタ（JC 傘下および他支部傘下）や他支部とよく相談して推進する。2. 他支部にチャプタが多数ある場合、東京支部とチャプタを有しない支部との Joint Chapter としてそのソサイエティのチャプタを設立することを促進する。それ以外の状況では東京支部チャプタ設立を促進しない。」というものであった。そのほかの報告では日本発の Milestone が今年は 4 件採択されたこと、今年は日本からの各種 award 受賞者が多かったことが報告された。

3. 連合会報告

末次 Secretary より 2010 年 1 月 14 日開催の新旧引継ぎ会の議事内容の説明があった。今年の九州支部大会は発表 710 件企業発表 7 件と例年になく論文が集まり盛況であった。その結果一時危機的だった連合会の財政が復活した。そのため 2 年前から増額されていた分担金の増額分を各学会に返金することになった。IEEE の場合 2 万円増額されていたので 2 万円返金される。

4. 支部活動状況および会員数の報告

資料 ExC-2010-1-5 に基づき支部会員数の推移が説明された。昨年減少に転じた会員数が 2010 年 1 月の集計では持ち直していた。但し、毎年 2 月 3 月に会員数が減少する傾向にあるので、例年同時期に比べて増えているかどうかはわからない。学校別学生会員数では熊本大、九州工業大、琉球大、早稲田大、同数で九州大の順に会員数が多かった。ソサイエティ別では C ソサイエティがトップだった。

続いて会計状況について報告が行われた。JC から Section 支援費として TENCON 支援金が 50 万円入金され、支出としては TENCON 支援費 100 万円を TENCON2010 実行委員会に送金された。その結果余剰金は期初 206 万円であったものが期末 168 万円となった。2010 年度予算としてはほぼ例年通りとしたが、Section 支援費として TENCON 準備金 100 万円と学生研究奨励賞 25 万円を申請することを決定した。当支部からの TENCON 開催対応として、支部会計の余剰金全額を TENCON が赤字の時の補填用として備えておくことになった。

5. 福岡支部学生研究奨励賞について

楯崎 SAC Chair より審査結果の報告があり、応募件数に対する受賞件数の割合が 0.3 前後になりかつ得点の区切りがよいところで上位 13 名を表彰者とした。審査方法について以下の意見が出された。

(意見) 審査基準のうち「独創性」と「有用性」は学生の評価というより教員の評価になってしまう可能性があるのではないか。

(意見) 九州支部大会の国際セッションでの発表が散見され、従来よりも論文のレベルが下がっていると感じられるが、一方で採点が甘くなってきている。

その結果、次年度から(1)応募要件としてレフリー付きのジャーナルまたはレフリー付きの国際会議に限ること。(2)九州支部大会の国際セッションでの発表に対して本表彰とは別に発表奨励賞(仮称)を設けること。という内容で檜崎 SAC Chair により審査方法の再検討を行うことになった。

6. その他

6-1. TENCON 準備状況について(報告)

TENCON の準備状況について荒木 TENCON Organizing chair より説明があった。昨年11月にTENCON2009 シンガポールに参加して実施状況を見てきた。投稿1000件採録450件内ポスターが半数以上、招待講演4件一般43セッションあり lecture 4 会場 poster 1 会場だった。11月14日にTENCON2010 実行委員会を開いた。プログラムは岡田 chair を中心に進めている。Web 業者は3社検討した結果トーヨー企画にする見込みである。Tutorial と exhibition についても担当者をお願いして準備している。2月6日に再び実行委員会を開く予定である。2月末のR10 Meeting でもTENCON の情宣を行う。

6-4. その他

荒木 past chair より ISIT への委託手数料の値上げについて打診した結果、その必要はないという返答を ISIT から頂いた。

次回理事会は暫定で6月19日(土)とする。

(議事録作成: 末次)